

2011年6月20日

関係各位

越後湯沢「赤ちゃん一時避難プロジェクト」
 子供達と家政大生が食と遊びを通じて交流
 栄養学専攻の専門性を生かす素晴らしさを実感



シロツメクサの冠の作り方を伝授!

○ だれでもが安心して食べられる米粉スイーツの必要性を実感 ○



外で遊ぶ子供達が一番!ボランティアスタッフの皆様の献身には脱帽
 想されて、母子が交流に集まってくれるのか不安でした。

「赤ちゃん一時避難プロジェクト」には福島県を中心に被災地の母子が避難して来ています。多くの方は避難地域には指定されていないけれど原発被害から子供達を守りたい、怖くて地元で生活に不安な方たちです。

家政大生7名とガトウ専科の高頭パテシエと前日から「小麦、乳、卵」を使わない米粉スイーツを作り、子供達と遊びながら交流をしました。訪問した日は「父の日」で、高速1000円割引最終日で、福島から父親が子供に逢いに来ることが予

晴天だったのでプレイルームから急遽外で遊ぶことに変更。集合時間の1時には大勢の母子、そして、父親の方も参加。元気一杯の子供達とお花摘み、ボール遊び、おたまじゃくし採取などアウトドアの遊びを満喫。おやつタイムには米粉スイーツが「あっ」と言う間になる盛況ぶり。楽しい時間を過ごすことができ、又、母親の皆様から貴重なお話を伺えました。このプロジェクトは7月25日で閉鎖されます。その後の生活設計どうするのか、母親達は厳しい選択を迫られています。



お菓子の説明をする高橋リガー。赤ちゃんプロジェクトは2回目



学生7名中5名が初参加で1年生が4名。毎年変わる学生メンバーに面食らう高頭パテシエ。しかし、夜行バス、各駅停車で新潟に来る伝統は変わらず。



夕飯は「非常食」の食べ比べをしました。一般の非常食は味が濃く塩分が高いので、女性・子供、食事制限者が食べ続けられないことを実感。



午前中は子供達が植えたトウモロコシ畑の草取り。スタッフで北海道から参加の看護師と一緒に草むしりして「食」への思い学生達が熱く語りました。



アレルギー児の母も大喜び。避難生活で対応食を食べられずアレルギーを発症。幼児のおやつもない。学生達! 現実を知り将来に生かしてほしい!



【 問い合わせ先：(有)エコ・ライス新潟 豊永有(トヨナガユキ) 】

TEL 0258-66-0070 FAX 0258-66-0447

HP <http://www.rice-shirafuji.com> e-mail eco-net@nekonet.ne.jp

白藤HPに学生の手作りブログを追加しました。